

出演者紹介

喜多郎

喜多郎は世界でもっとも高い評価を受けている日本人アーティストの一人である。
「音楽によって全世界を体感することができる」と語る喜多郎は、作曲家・演奏家として自身の生活環境の体験から、自然の雄大さ、荒々しさ、暖かさ、冷たさなど様々な感情を授かり、その美しく独創的、イマジネイティブな音楽世界は世界中の人々に親しまれている。2013年には4年ぶりとなるオリジナルアルバム「Final Call」をリリース。自然への尊敬と敬意を表し、いつか全ての生物が調和して生きていけるようにとの願いを込めた渾身の一作。この作品で第56回グラミー賞にノミネートされ、喜多郎作品のグラミー賞ノミネートは15回を数える。2014年からは、初の試みとしてオーケストラ形式のシンフォニック・ワールド・ツアーを開始。アメリカ・カリフォルニアを皮切りに、ヨーロッパ5カ国6公演、シンガポール2公演を行ったコンサートは、地元メディアに大きく取り上げられ、話題を呼び大成功を収める。最新作として、このシンフォニック・ワールド・ツアーを収録したライブアルバム、「シンフォニック・ライブ・イン・イスタンブール」を2014年8月リリース。

山川冬樹

ホーメイ歌手／アーティスト。声と身体を扱った表現で、音楽、現代美術、舞台芸術の分野で活動。電子聴診器を用いて心音を増幅してみせるパフォーマンスや、骨伝導マイクで頭蓋骨の共鳴を増幅したパフォーマンスで、ヴェネツィア・ビエンナーレ、フジロック・フェスティバル、国内外のノイズ／即興音楽シーンなど、ジャンルを横断しながらこれまでに15カ国でパフォーマンスを行う。また一人で同時に二つの声で歌うと言われる、アジア中央部の伝統歌唱「ホーメイ」の名手として知られ、2003年ロシア連邦トゥバ共和国で開催された「ユネスコ主催 第4回国際ホーメイフェスティバル」では「アヴァンギャルド賞」を受賞。現代美術の分野では、個人と社会の記憶が交差するインスタレーション「The Voice-over」(2008)を発表。同作品は東京都現代美術館にコレクションされている。また2011年1月1日より自らが発声する「パ」という音節の所有権を、一人のアートコレクターに100万円で販売することで成立するパフォーマンス、『「パ」日誌メント』を開始。以降一切「パ」と発音することなく日々を暮らしている。

小川由美子

光を音に、光を絵にするアーティスト。一人一人の輝きに出会うことを喜びとする。
1987年スコットランドの瞑想センターで、自然に根ざしたスピリチャリティとの出会いから内なる旅が始まる。その後エディンバラ郊外の小さなコミュニティに住み、ケルトのハーブに出会う。その時の共同生活の体験から、京都の自宅を地球家族が集う「スペース紫明」としてオープンし、交流の場を提供している。ハーブでは、水・光・風・大地など自然の祝福をテーマにしたオリジナル曲を弾くようになり、1999年ソロCD「SORA」を制作。2005年笛奏者の福井 幹氏とミュージックユニットを結成し、自然からインスピレーションを得た音のハーモニーを奏でている。その音楽は、自然や平安を愛する全国の仲間と共鳴し、内外のスピリチュアルリーダーにも提供されている。またソロ活動では、ハーブやライアで、ヒーリングや朗読・ダンスなどとのコラボもしている。

CD「森のひびき」「光の森」ライア・ソロ CD 'Angel Wings'

京都大学大学院理学研究科附属天文台

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/>

天文台基金

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/kikin/>

天文台基金 事務局

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学理学研究科4号館 4階 天文台分室内

Tel: 075-753-3893 (平日 9:00~17:00) Fax: 075-753-4280

E-mail: tenmondai-kikin@kwasan.kyoto-u.ac.jp

天文台基金 野外コンサート

見本 (2014年版コピー)



2014年10月4日(土)

18:30~20:30

プログラム

17時30分 開場

18時30分 開会

挨拶 柴田一成 天文台長

祝辞 門川大作 京都市長(代理:藤田裕之 副市長)

「古事記と宇宙 —音楽と宇宙映像の融合の試み」(DVD)の紹介
(喜多郎作「古事記」にあわせた宇宙映像の上映)

19時00分より コンサート開演

山川冬樹(30分)

喜多郎・高橋恵子・小川由美子(60分)

広場に望遠鏡を設置しての観望会も同時に実施します。

台長挨拶

花山天文台へようこそ

★アマチュア天文学の聖地

花山天文台は、大学天文台としては日本で2番目、1929年(昭和4年)にできた伝統ある天文台です。

これまで太陽系・太陽の観測で活躍してきました。また、日本のアマチュア天文学発祥の地としても知られています。

★京都を彩る建物や庭園

花山天文台は、研究・教育の場としてもさることながら、歴史ある天文ドームなど、その景観も評価を高めています。

花山天文台は、2013年1月に、京都市の「京都を彩る建物や庭園」に選定され、2014年5月には、その中でも特に価値の高い施設という「認定」評価を受けました。私たちは、この天文台の素晴らしさを皆様にぜひ知っていただきたいという思いで、毎年 一般公開を企画するなど、様々な取り組みを進めております。

★喜多郎さんとの出会い

一昨年2012年5月21日に京都で282年ぶりの金環日食がありました。喜多郎さんとお会いしたのは、その年の2月7日。ジャーナリストの玉重佐知子さんのご紹介で、喜多郎さんを花山天文台にお招きしてご案内したのです。花山天文台の歴史的建物や日本最古の現役望遠鏡であるザートリウス望遠鏡によるリアルタイムH α 太陽像などを見ながら、会話がどんどん盛り上がり、喜多郎さんは大の天文学ファンであることがわかりました。

こうして出来たのが、「音楽と宇宙映像の融合の試み《古事記と宇宙》」です。

★花山天文台での感動的なコンサートを今年も

昨年9月22日、喜多郎さんを花山天文台にお招きして、仲秋の名月の下で野外コンサートを開催しました。幸い天候にも恵まれ、素晴らしい野外コンサートとなりました。

喜多郎さんと高橋恵子さんから、今年もまた花山天文台応援のための野外コンサートを開きましょうという言葉をいただき、本日のコンサートに至っております。

今年は、ホーメイ歌手の山川冬樹さん、アイリッシュハープ奏者小川由美子さんもご出演いただけることになり、昨年よりさらに充実した企画になっています。



京大農学部グラウンドにおける金環日食観察会で
山田知事・門川市長とともに(2012年5月21日)



去年のコンサート風景

★花山天文台の現状

現在、国(大学)全体の予算削減の影響で、当天文台は昨年以上に予算面で窮状にあります。

天文台の定常的な維持・管理、施設の保守(人件費など)に関わる予算すら工面困難になりつつあります。そのため今年は「天文台基金」をたちあげ、天文台の各種事業にご寄附を募ることを組織的に始めました。そのような状況ですので、今年は野外コンサートにご参加いただきました皆さまには、天文台基金へのご寄附のお願いをさせていただきました。

今後永きにわたって花山天文台を存続し、多くの市民の皆さま、特に子供たちに観望会や見学会に来ていただくためのやむにやまれぬ措置ということで、ご理解いただければ大変幸いです。

ボランティアで来てくださった喜多郎さんをはじめ出演者の皆様にも、このような趣旨で開催することをご了解いただいています。本日まで参加いただいた多くの市民の皆さま方、協賛という形でご支援くださった企業・団体や個人の皆さま方、コンサートの裏方としてご協力くださいました多くの方々、そして喜多郎さんをはじめとする出演者の皆さま方には、心より感謝申し上げますとともに、今後とも末永く、当天文台をご支援ご愛顧いただければ大変幸いです。

2014年10月4日

京都大学大学院理学研究科附属天文台 台長

柴田一成

本日まで出演の皆さまとの出会い



喜多郎さん、小川由美子さんと(2014年6月15日)



山川冬樹さんと(2014年5月9日)

「音楽と宇宙映像の融合の試み《古事記と宇宙》」について

古事記は、天地(宇宙)の始まり、神々(万物)の創造、天の岩戸伝説(古代の日食?)など、宇宙と深く関わる物語です。喜多郎さん作の楽曲「古事記」はまさに古事記の宇宙との関わりを見事に音楽で表現したものです。その素晴らしい楽曲「古事記」から連想される宇宙映像を、古事記の内容も考慮しつつ編集したのが、このコラボレーションです。

2012年の金環日食の日に、京大時計台ホールで初めて同時上映を試みました。このときはしろうと作りの編集でした。その後、京大メディアセンターの元木環さん、岩倉正司さん、花山天文台の西田圭佑さんの助けを得て、編集を本格的にやり直した結果、すばらしいコンテンツが出来ました。同年11月に、古事記のふるさと和歌山市で開かれた「古事記と宇宙」シンポジウムでは、喜多郎さんの生演奏に続く形で、本コンテンツを上映しました。そのDVD(国際版まで含むバージョン)を、近々、全世界に配布販売できる見込みです。楽曲「古事記」を楽しみながら、最新の宇宙の画像や映像を楽しんでいただきたいと思います。なお、ここに出てくる画像や映像は単に美しいだけでなく、学問的重要性も考慮して選ばれており、全体を鑑賞すると天文学入門となるようになっています。今回は、「古事記と宇宙」の7楽章のうちから一つを選んで上映する予定です。お楽しみいただければ幸いです。

(2014年9月 柴田一成)

喜多郎さんからのメッセージ

今年で2回目となる花山天文台でのコンサートです。限られたスペースですが最大限に活用して、花山天文台でのコンサートが定着していき多くの応援ゲストを迎えて、皆さんに愛される花山天文台となるように頑張っていこうと思います。

(2014年8月 喜多郎)

京都市長からのお言葉



「明けたかと思ふ夜長の月あかり」。夏目漱石の句です。

秋の夜長に煌々とした光を放つ月、そして夜の闇に映える銀色のドームの下で素晴らしい音色が奏でられる贅沢なコンサートは、御来場の皆様に深い感動をもたらすことでしょう。

アマチュア天文学の聖地として、いまでも多くの人々から親しまれている花山天文台。みなさま素敵な夜のひと時を、どうぞ存分に御堪能ください。

2014年9月25日 京都市長 門川 大作

主催: 京都大学大学院理学研究科附属天文台

共催: 京都市教育委員会、NPO法人花山星空ネットワーク、京都大学総合博物館、

京都大学宇宙総合学研究ユニット、財団法人宇宙科学研究イニシアティブ

後援: 京都府教育委員会

(協賛は別紙)